

平成27年6月26日(金) 14:30~16:30

<LL教室にて>

① 校長挨拶

- ・ 高校入試が来年度は1回になる等、教育行政が新聞で取り上げられている。
- ・ 泉鳥取高校は、地域に根差した学校をめざしている。

② 出席委員・事務局紹介(敬称略、順不同)

山田 博 氏	寺脇 久人・川瀬 治彦・中原 浩育・星野 恵美・安田 寛
猪俣 健一 氏	鮎川 哲也・三宅 史朗・中山 泰・栗原 重彦・三木 裕子
中山 武彦 氏	北岡 深雪・吉岡 美幸・新延このみ・杉田 芽衣
水口 和恵 氏	日野 有梨・沖殿 佳祐・楠本 拓実・重野 金美
山東 陽一郎 氏	

③ 委員長指名

校長より、山田 博氏を委員長に指名

山田 博氏より挨拶

- ・ 御校は、野球部が新聞で報道され、周りの人に知られていっている。
- ・ いろんな良い意見を提言していきたいと思っている。

④ 本校の概要についての報告

ア 進路関係

本校の進路状況について

- 各学年の進路希望調査について
  - ・ 進学：就職=1：1の割合
  - ・ 1年と2年の数字の違いは、未定の数であり、2年になり増加している。
  - ・ 未定の数多さは気になっている。3年では、その数を減らすために取り組んでいる。
  - ・ 就職模擬面接を2回終えた。エントリー数が、150となった。
  - ・ 進学と迷っている者も含まれている。
  - ・ 3年の未定数は、恐らく減少している。
- 昨年度までの卒業生の進路状況について
  - ・ 就職の数は横ばい状態。
  - ・ 昨年度は、未定数が激減した。就職者数が、一昨年度比で増加。
  - ・ 原因は、団塊の世代の大量退職と緩やかな景気回復だと考えられる。
  - ・ 求人票が増えたのは、ダウンロードした求人票を含めたからである。
  - ・ 卒業生が頑張っているということで、求人票を頂けた会社もある。
- 就職支援サポーターにも協力願っている。

イ 生徒指導関係

- 今年度は、前年度に比べ、特別指導の件数は若干増加。
- ・ 特に、近隣からの通報によるものが増えている。
- ・ 今後も、学校内外に渡り、地域とも連携して指導に当たる。
- 本年度は、1学期中間考査と懇談週間の期間に、交通マナーの意識向上と交通安全のために、生徒指導部のみならず、複数の教員で下校指導を行った。

ウ 保健関係

- 健康診断について
- 避難訓練について
  - ・ 消火訓練等を行っていない。
  - ・ 大阪880万人訓練に合わせて、本校も行っている。
- 救急救命法、熱中症予防教室を開催している。

エ 図書自治会関係

- 対外交流
  - ・ 「乗車マナーアップキャンペーン」への参加
  - ・ 『キャンドル物語』への参加

オ 教育相談関係

- 教育相談委員会：毎週、会議を開き、情報の共有を図っている。
- ケース会議：外部のアドバイザーや本校のカウンセラーに参加してもらい、年4回実施している。
- 研修については、校内外の各種研修への参加意欲も高く、多くの教員が参加している。
- 生徒相談室は、昼休みに教員が当番制で常駐している。

カ 学校の近況等

- ホームページは、授業日は毎日更新している。
- 「イズトリだより」  
岸和田以南の中学校へ、3年のクラス分+1を送付している。
- 年間行事予定

【協議委員よりの質疑】

**協** 少人数制の方法は？

- A 7クラス募集の人数を8クラスに展開。  
1年の英語と数学の2単位について実施している。  
1クラスを習熟度別少人数で約15名と20名に分けて2展開している。  
各考査ごとにメンバーを入れえかえている。

**協** 最近の生徒は、遠くへ行きたがらない、自宅から通える範囲を選ぶ傾向がある。大学の場所をあまり知らない。狭い範囲でしか選んでいない。地域をまたいで理解するためにオープンキャンパスを利用する高校も増えている。御校ではどうか？

- A 大阪市内が限界かもしれない。  
岸和田から以南の生徒は、北へ行きたがらない。  
生徒の活動と心を外に向けようと活動してきた。  
進学や就職に関しては、なかなか行こうとしない。  
夏休みに取り組んだこともあったが、あまり効果が得られなかった。  
今年度は、2年で初めて進路見学会を企画した。大阪市内の学校や企業を選んだ。  
生徒の感想は、とても良かったという意見が多かった。  
昨年度の1年は、職業体験できる進路HRを取り入れた。  
2年の3学期に分野別の進路HRを実施する。

⑤ 学校経営計画についての報告及び協議

ア 校長より報告

- 基礎学力を付け、規範意識を高め、進路未決定者を減らすことをめざしている。
- 平成26年度についての報告
  - 平成27年度についての報告
    - 1 「生き抜く力」の基となる確かな学力を育む
    - 2 安全で安心な学習環境の維持と自尊感情の育成
    - 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育む
    - 4 自ら学び続ける教師集団を育む
- ※ 「入学前から生き方プランを考える機会を提供する」を今年度新たに加えた。

イ 協議

【協議委員の方々より】

平成26年度の学校教育計画の報告より

**協** 進路について

進学希望者と就職希望者の2つあるが、大学は入りやすくなっていると聞くと、事実なのか？

A 入りやすくなっている。

**協** 1年生で大学を希望している数は少ない。就職は、何かをしたいという意識を持っているのか？就職と進学は、就職の方が難しいと思う。就職は続かないと意味がな就職した者の内、1年後離職した者はいないのか？

A 本校では、追跡調査はしていない。

- 【協】考える時期としては、1年は大切な時期だと思う。  
 しっかりと考える手立てや指導を考えてほしい。  
 A 勉強したくないから就職するという生徒もいる。  
 将来へ向けての展望入れた指導はしている。
- 【協】就職してからの方が勉強することが多い。  
 1年の時に進学希望の数が増える方がいいと思う。
- 【協】基礎的な力をつけていく必要はあると思う。
- 【協】部活動の参加数が増えているのはいい。  
 ボランティア等、外に出向いていく数を増やして行ってほしい。  
 地域との関わりを高めて行ってほしい。
- 【協】就職に関しては、アルバイト先と何かの協力関係が持てれば、一つの方向性が見えてくるかもしれない。  
 ICTの利用と学力の関係について、ICTを多く取り入れたら学力が上がるとは限らない。  
 書くことが疎かになりがちになる。
- 【協】生徒がみんなの前で発表するような機会を多く取り入れてほしい。  
 18歳で選挙権を持つということで、社会を知るような機会を持てるようにしてほしい。  
 卒業生との交流や他の学校との交流を持ってほしい。
- 【協】先生方に時間的な余裕はあるのか？  
 A 実際は、余裕はない。退勤も遅い。
- 【協】黒板を写真撮りする生徒はいないのか？  
 A 本校では、授業の終わりにノート提出するので、それはない。

#### 平成27年度の学校教育計画の報告より

- 【協】挨拶はするようになってきているのか？  
 A 以前に比べれば、挨拶するようになってきている。  
 自ら挨拶する生徒が増えてきている。
- 【協】異世代の人と会話することは大切である。  
 学校によって、挨拶するしないに大きな差がある。  
 会話するときの基本となるので、挨拶はさせるべき。  
 乗車してくる生徒の様子も以前に比べれば良くなった。
- 【協】資格取得の内容は？  
 A 英語検定が中心となっているが、まだまだ不足している。  
 情報検定関係も増やしていきたい。
- 【協】高校の方から、こういうことをしたいという提案を待っている。  
 声が掛かったらやるというのではなく、自分たちから声掛けをして行ってほしい。
- 【協】基礎学力を向上するには、先生方の指導力が必要である。  
 授業で勝負をするためには、先輩教員の授業をもっと見られるようにして行ってほしい。  
 「自ら学び続ける教員集団」を重要視してほしい。
- A 学力向上PTTが中心となって、授業見学月間を作り、授業観察を行っている。
- 【協】良くなってきているので、立ち止まることなく進んで行ってほしい。

#### ⑥ 校長挨拶